発言通告表(一般質問)

令和7年11月定例会

順位	氏名 (議席)	発言の要旨
1	遠藤 盛正(22)	1. 庁内に高齢者就労支援窓口「生涯現役支援窓口」を設置することについて

順位	氏名(議席)	発 言 の 要 旨
2	望月 徹(11)	1. 小長井市政12年、推進した施策について本市は、この12年小長井義正氏に市政を託し、多くの施策を実行してきました。また、令和4年度からの第六次富士市総合計画において、目指す都市像を「富士山とともに輝く未来を拓くまちふじ」とし、7つのまちの姿を基本目標として揚げ、様々な施策を展開してきました。この施策の推進、特に留意されたこと等について、今後の市政発展につなげたく、以下質問いたします。 (1) 旧富士川町との合併から17年がたちました。このうち、12年が小長井市政です。本市にとって合併による効用をどのように捉え、市全体の中で旧富士川町をどのように生かしてきたかお伺いします。 (2) 魅力あるまちづくりを目指す中で、市内26地区にまちづくり協議会が設置され、地区のさらなる活性化が進められています。まちづくり協議会に求めたこと及びその効果と今後への期待についてお伺いします。 (3) 市民サービスの向上に向けて、おくやみ窓口のワンストップ対応を創設・推進してきました。この事業で留意されたこと、具体的な取組と効果についてお伺いします。 (4) 災害対策として、ハザードマップの導入・周知に取り組んできました。また、全国で最初にトイレトレーラーを導入し、多くの被災地へ出向き活用されてきました。導入の判断をされた経緯をお伺いします。 (5) 産業面において、ものづくり力交流フェアの開催等、工業都市として発展してきた富士市の事業紹介の場づくり、CNFの事業推進等されてきました。富士市民歌にもあるように、工業都市として発展してきた本市でありますが、これまで本市の工業をどのように支え、発展させてきたか、また、今後の展望をお伺いします。

順位 氏名 (議席) 発 言 の 要 旨	
3 関 明美(2) 1. 複数部署の個別契約を包括契約することによる経費削減等ので富士市では、都市計画課の都市計画基本図作成業務、建設績	総空おる一みかし契務 、い改と 、副員ど よまあ 最契務間り。度のとて約の 同るめ運 議市はこ るでれ 影約即報こ 航務える一率 にの精面 にに政で 理ほそ 務含道等れ 空でるこ本化 、や査で おおの可 空かの のめの りょう ない りょう と化に 各、しの いい適能 間に内 よる いっぱ りょう という はい すん でんしん でんしん でんしん でんしん いい 道能 間に内 よる ない でんしん はい さんしん はん しん いい 道能 間に内 よる ない でんしん はん でんしん いい 道能 間に内 よる ない しん いい 道能 間に内 よる ない はん はん はん にん ない にない 情も容 うない かんしん はん はん いい 道能 間に内 よる ない はん

4 植松 光徳(8) 1. 富士市における地域医療体制の変遷と持続可能な地域医療体制の確立に向けた今後の課題について 地域医療は市民の命と生活の基盤を支える上で欠かせないものであり、医師・看護師をはじめとする医療従事者の献身的な努力と、地域社会全体の支え合いによって成り立っています。特にここ数年、コロナ禍を経て医療提供体制の逼迫が全国的な課題となる中、本市でも630問題、430問題と呼ばれる救急搬送困難事案への対応が重要な課題として認識されてきました。そうした中、本市では、救急医療提供体制の充実をはじめ、医療人材確保の取組、在宅医療や地域包括ケア体制の推進など、地域医療の基盤強化に向けた多くの施策が進められてきたところです。 一方で、少子高齢化の進行、医師や看護師の人材不足、地域間の医療格差など、課題は依然として思想しております。	順位	氏名(議席)	発 言 の 要 旨
来年1月には小長井市長が12年の任期を終え勇退されます。そこで、これまでの市政運営の下で地域医療体制がどのように変化し、どのような成果があったのか、また、今後の市政に引き継ぐべき課題は何かという視点から、以下伺います。 (1) 小長井市長の任期12年間における富士市の地域医療体制の変化と成果について伺う。 (2) 富士宮市を含めた富士保健医療圏の医療連携体制構築の進捗状況について伺う。 (3) 次の市政においても引き継ぐべき地域医療課題をどのように考えているか伺う。	4	植松 光徳(8)	けた今後の課題について 地域医療は市民の命と生活の基盤を支える上で欠かせないものであり、医師・看護師をはじめとする医療従事者の献身的な努力と、地域社会全体の支え合いによって成り立っています。特にここ数年、コロナ禍を経て医療提供体制の逼迫が全国的な課題となる中、本市でも630問題、430問題と呼ばれる救急搬送困難事案への対応が重要な課題として認識されてきました。そうした中、本市では、救急医療提供体制の充実をはじめ、医療人材確保の取組、在宅医療や地域包括ケア体制の推進など、地域医療の基盤強化に向けた多くの施策が進められてきたところです。 一方で、少子高齢化の進行、医師や看護師の人材不足、地域間の医療格差など、課題は依然として山積しております。 来年1月には小長井市長が12年の任期を終え勇退されます。そこで、これまでの市政運営の下で地域医療体制がどのように変化し、どのような成果があったのか、また、今後の市政に引き継ぐべき課題は何かという視点から、以下伺います。 (1) 小長井市長の任期12年間における富士市の地域医療体制の変化と成果について伺う。 (2) 富士宮市を含めた富士保健医療圏の医療連携体制構築の進捗状況について伺う。 (3) 次の市政においても引き継ぐべき地域医療課題をどのように考えてい